



ホットニュース Hot News

◎「哲学」の棚を紹介します！

春らんまんの季節ですね。新しい環境にまだ慣れずに困っている方へオススメの棚があります。

図書館での分類が、140「心理学」や159「人生訓」、180「仏教」など、「1」からはじまる番号の本は「哲学」の本です。この分類の本は、私たちが日々を過ごす上で悩んだり、不安を覚えたりするとき、先人の知恵を借りることで、今抱えている悩みや不安が少し減るかもしれない、そんなヒントが詰まったものがたくさんあります。

私のオススメは『情報を正しく選択するための認知バイアス事典』(141.51)という本で、無意識のうちにやってしまっている考え方のクセにたくさん気づくことができました。

哲学といっても分かりやすく書かれた本も多いので、中庭の新緑を眺めながら、ゆっくり座って本を開いてみてはいかがでしょうか。



▲オススメの本

オススメの本



『姉と弟がまあまあ仲良く暮らす日常。1』

神仙寺瑛/著 竹書房

名古屋に住む姉弟が、中部地方の道の駅でグルメを楽しむマンガです。田原市内のあの道の駅も登場します！



『おしごと道具名前じてん』

菅祐美子/著 東京書店

見たことはあるけど名前を知らない道具ってありますよね。こんな名前なんだ！と雑学の知識が増える楽しい本です。

History Inquiry Club 其の249 歴史探訪クラブ

文化財課(博物館) ☎22-1720
吉胡貝塚資料館 ☎22-8060
渥美郷土資料館 ☎33-1127



博物館HP



博物館Instagram

宮川春汀・斎藤専吉の功績を見直す

福江町出身の宮川春汀(1873~1914)は明治時代終わりに活躍した挿絵画家、斎藤専吉(1876~1962)は地元の文化発展に寄与した人としてこれまで紹介されてきました。しかしこの二人の功績はそれのみではありません。



▲宮川春汀



▲斎藤専吉

売れっ子となった春汀は東京で多くの文化人たちと交友を深め、集うたびに故郷の伊良湖をはじめとした渥美半島のすばらしさを語りました。明治31(1898)年にはその影響を受けた柳田国男や太田玉茗、田山花袋が相次いで伊良湖を訪れました。島崎藤村は、柳

田国男が伊良湖で体験したエピソードからヒントを得て『椰子の実』詞を作りました。もはや、春汀なくしてこの名曲は誕生しなかったことでしょう。

斎藤専吉はこの文化人の地元での受け入れ窓口となり、その大らかな人柄で半島の歴史・文化や自然を伝えました。

春汀は東京で、専吉は地元で、影響力のある人たちにその良さを伝え、彼らの発信力のおかげで伊良湖はあこがれの観光地となっていくます。私は二人の絶妙な連携によって、魅力ある渥美半島の観光の礎を築いた功績を評価したいと思います。この二人の人脈の使い方、故郷愛に満ちた「ロコミ」は今後の渥美半島の観光振興のヒントになるかもしれません。

歴史探訪クラブHPの「郷土の人物」ページにバックナンバー「112.渥美半島の誇るべき芸術家宮川春汀」、「94.渥美半島の文化を支えた斎藤専吉」で紹介しています。

(学芸員 増山禎之)

歴史探訪クラブHP▶

